SUWA.A.C WEEKLY

＜週報№2,843＞　2,952 回例会
２０１８年５月１８日（金）
■会長／八幡　一成　■幹事／北川　和彦

◆司会＝平林明ＳＡＡ
◆ゲストビジター＝日銀松本支店支店長 中村康治様
◆出席報告

本　　日	６０．４７％	２０名欠席
前回訂正	８６．３６％	７名欠席

◆ラッキーナンバー＝№18　有賀昭彦君
◆ニコニコボックス＝●八幡一成君、北川和彦君＝中村康治日銀松本支店長様、本日はよろしくお願いします。●太田信男君＝日銀松本支店長中村康治さん、5 月 20 日誕生日おめでとうございます。●東本清文君＝5 月 15 日の出席委員会歓迎会には全委員ご参加いただきありがとうございました。余剰金をニコニコボックスに入れます。●有賀昭彦君＝ラッキーナンバーに当たって。
◆会長告知・八幡一成会長＝今日はイアン・ライズリー RI 会長からの 5 月のメッセージを紹介します。

ロータリーは、規模が大きく非常に複雑な組織です。この記事が発行される現時点において、世界のほぼすべての国に 35,633 のクラブがあり 120 万人の会員がいます。ロータリーのプログラムには何十万という人が参加しています。ローターアクト、インターアクト、青少年交換、RYLA、ロータリー地域社会共同隊、ロータリー平和センターなどのプログラムのほか、国、地区、地域レベルのプログラムやプロジェクト、財団が支援するプロジェクトもあります。血液・食糧バンク、学校衛生からポリオ撲滅まで毎年ロータリーの名を冠する数え切れないほどのプロジェクトが遂行されています。初のロータリークラブが創設されてから 113 年が経過した今、ロータリーの奉仕活動は世界中に広がっています。

日々の奉仕活動は、地域、国、クラブによって大きく異なり、各クラブに独自の歴史、優先項目、アイデンティティがあります。また、ロータリアンの個性や一人ひとりの奉仕に対する目的意識も同じではありません。地域ごとの独自の方法が尊重されるロータリーにおいて、会員やクラブがそれぞれに最も適した方法で奉仕することは問題ではありません。ただし、多様性は私たちの強みであるものの、組織としてのアイデンティティが課題となります。ロータリーという名称を知っている人は多くても、クラブの活動内容、その構成、存在理由を理解している人はごく一部です。ロータリー会員であってもロータリーという組織、全体の目標、プログラムの内容や範囲を十分に理解していない人が大勢います。この課題は効果的な奉仕を実施し、会員増強に取り組み、パートナーシップを強化していく上で重要な意味をもっています。

組織全体でこの問題を解決するため、ロータリーのビジュアルとブランドを強化するツールを数年前に導入しました。今日、私たちはこれらのツールを使用しながら「世界を変える行動人」という新しいグローバル広告キャンペーンを実施しています。このキャンペーンは補助金を利用して各地で変化をもたらしているロータリーの活動を紹介するものです。昨年 6 月 、国際ロータリー理事会は私たちの活動の多様性を結ぶ一つの目的と、ロータリーのアイデンティティを反映した新しいビジョン声明を採用しました。

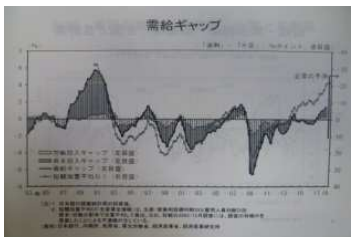
「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」どこに住んでいても、何語を話していても、どんな活動をしていようとも私たちのビジョンは同じです。世界をより良い場所にできると信じ、そのために私たちは活動しています。ロータリーは世界をより良くする機会を与えてくれます。「ロータリー：変化をもたらす」のテーマを通じて、一つになって行動を起こしましょう。
◆幹事報告・北川和彦幹事＝本日は中村支店長様、よろしくお願いします。略歴ですが出身は福井県越前市、東京大学経済学部から日本銀行入行。昨年 6 月に第 68 代松本支店長に就任されました。①入会申し込みされた三井住友銀行の河田康幸さんは先週の理事会で承認されました。1 週間の異議申し立てがなければ入会となります。異議のある方は申し出てください。②IM の報告書が岡谷エコークラブから届きました。例年に比べて薄いものですが、DVD が 1 本届いていますので画像を見たい人は申し出てください。③ロータアクトクラブが 2 名の入会申し込みがありました。さらに 1 名入会の予定がありますので、阿部会長を入れ 4 名で次年度継続できることになりまし

た。まだ不足しているので声がけをお願いします。④来週はゴルフ例会です。午前 10 時 30 分受付、11 時点鐘、ゴルフは 11 時 59 分スタートです。

◆クラブフォーラム　日本銀行松本支店 中村康治様＝

本日は最近の金融経済情勢についてお話させていただきます。内容は最近の経済・物価情勢と先行きの見通し、日本銀行が行っている金融政策の運営です。

景気の現状、過去を振り返る上で一番有益な指標の一つが「需給ギャップ」です。「0」が普通の状態で、これより上にいくと経済は好調、行き過ぎると加熱ということになります。過去を振り返ってみると 88 年から徐々に景気が上向き、91 年がピークで 6%位まで伸びています(バブル景気)。その後は平均すると 20 年以上景気はマイナス(デフレ)でしたが、昨年からようやく明確に再び上昇しています。



同じように景気を図る方法として「日銀短観」の数字があります。トレンドは需給ギャップと同じように推移していますが、長野県は昨年、製造業、特に輸出に関する製造業の景気が急激に回復。全体的に業況が一気に好転し回復しています。非製造業は製造業に比べれば非常に緩やかです。個人消費に関連の深い非製造業の改善は製造業に比べ遅れてやってきていると分かります。

国内製造業の業況の良さは世界の経済が好調という背景があります。80 年～17 年の平均成長率は 3.5%です。この 3.5%より高い成長が達成されると世界経済は好調です。最近では 16 年に中国が政策の引き締めを行い、世界に波及したため 3.5%を下回りましたが、その後成長率は高まり始め、17 年は 3.8%、18 年は 3.9%の見通しです。19 年は 3.9%、20 年は 3.8%と、しばらく世界経済は好調が持続するというのが IMF の世界経済の見通しです。

日本は今後も輸出が増える見込みです。日本は輸出全体の 17.5%が長野県にも関連企業が多数ある資本財(建設、製造機械、ロボット)で占められています。この資本財、16 年は前年比 1%の伸びに対し 17 年は 12.3%も伸びています。同じように半導体・電子部品といった情報関連の全体輸出に占める割合は 21.3%ですが、こちらも同じく 16 年が 2.0%の伸びに対し 17 年は 7.9%伸びており、自動車関連等を加えた全体の輸出は 16 年が 2.5%、17 年は 6.4%です。

生産が伸びると設備稼働は上がります。そうなると設備が不足する企業が増え、17 年はグンと伸びました。長野県の製造業における対前年度設備投資率は 16 年度が 2.1%、17 年度は 5.4%、18 年度は 8.2%を計画しています。非製造業の同設備投資率は 16 年度が 21.3%、17 年度は 10.4%、18 年度は－4.8%を計画しています。非製造業分野は人手不足に対し IT を活用した省力化・効率化投資や 24 時間稼働を見直すといったビジネスプロセスの見直しによる収益・生産性の見直しが活発化しています。

長野県内の個人消費は少しずつ上がってきています。物価も少しずつ上がってきており、昨年の夏以降前年比 1%上昇しています。ただし消費者物価は日本銀行の政策でもあり、デフレを脱却し、経済がノーマルな状況の消費者物価指数は 2%としています。

日本銀行は様々な政策をしています。借入期間ごとの金利水準をコントロールし(利回り曲線の操作＝イールドカーブ・コントロール)、短期政策金利を－0.1%(マイナス金利)、長期金利を 0%にコントロールし様々な借入期間の金利を低位に抑え、投資や消費等の支出活動を刺激しています。

イールドカーブを低く抑制するためには大量の資金を金融市場に供給し続けなければなりません(量的緩和)。伝統的に中央銀行は短期国債を買い入れることにより短期金利をコントロールしてきましたが、日本銀行は長期国債も大量に買い入れ長期金利をコントロールしています(量的質的金融緩和)。この他、上場している株式投資信託や不動産投資信託も買い入れリスクプレミアムに働きかけています。

最後に、日本銀行は物価安定目標 2%に対し実際のインフレ率が上振れたとしてもマネタリーベース(お金の量)の拡大方針を継続する、オーバーシュート型コミットメント政策を行っています。

◆今後の例会日程

5 月 25 日	金	ゴルフ例会
6 月 1 日	金	クラブ協議会　次年度に向けて (次年度会長・幹事)
6 月 8 日	金	創立記念例会　創立 61 周年